

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院消化器外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2006年4月1日 ～ 2017年5月31日の間に、S状結腸憩室炎によるS状結腸膀胱瘻のために虎の門病院消化器外科に入院・通院し、治療・手術を受けられた方

【研究課題名】

S状結腸憩室炎によるS状結腸膀胱瘻に対する腹腔鏡手術の有用性に関する後方視的研究
(過去のカルテを用いてデータを評価します)

【研究の目的・背景】

《目的》

S状結腸憩室炎による結腸膀胱瘻に対して低侵襲で安全な手術を施行することを目的とします。

《研究に至る背景》

S状結腸膀胱瘻とは大腸憩室炎により、膀胱とS状結腸の間に瘻孔が形成される病態であり、食生活の欧米化や高齢化などから増加傾向にある疾患であります。瘻孔が自然閉鎖することはなく、手術が唯一の治療法であります。その手術難易度は通常の大腸癌手術よりも炎症の影響により格段に高いとされています。当科では2000年初頭より大腸癌に対する腹腔鏡手術を国内外にて先駆的に実施し、現在までに約5000例の症例を蓄積しております。同時に憩室炎の増加に着目し、S状結腸膀胱瘻に対しても早くから腹腔鏡手術を導入し、2017年8月までに全世界で最多症例の腹腔鏡手術を施行しています。過去の症例の成績を検証し、安全な腹腔鏡手術術式の開発と確立を目指します。

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2018年2月6日 ～ 2018年9月30日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別するこ

とができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は虎の門病院消化器外科部長・黒柳洋弥のもと研究終了後5年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【診療情報を虎の門病院外へ提供する場合】

提供致しません

【利用する診療情報】

診療情報：検査データ、診療記録、CTデータ、薬歴

【研究代表者】

虎の門病院 ・ 消化器外科 ・ 黒柳洋弥

【虎の門病院における研究責任者】

消化器外科 ・ 黒柳洋弥

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2018年6月30日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 消化器外科 ・ 富沢賢治

電話 03-3588-1111(代表)